

3月21日新聞各紙の本校の記事は以下の通りです。「社意地の1点」「社19年ぶり勝利ならず」「社敗退 好機生かせず」「社敗退 力出し切れず」など本校の戦い振りを見出して伝え、試合内容については隈主将の記事、尾崎選手の機転の利いた走塁がピックアップされ、高橋投手の悔しい投球などがあげられていました。また応援団についてもパブリックビューイングを取材されていたり、アルプス席での様子や選手の保護者、OB会の方などが取材されていたりと、本校応援席の様子を伝えていただいていた。監督の言葉や選手の言葉も掲載され、どのような気持ちで試合に入り、経過と共にどのような思いを持ったのかがよく理解できました。多くの方々の思いと共に、学校全体で応援した結果です。いろいろな思いが皆さんの心に刻まれたこと



左：読売
右：ニッパ



右上：デイリー
左・右下：朝日
下段：神戸2枚
神戸1枚・毎日2枚



と思います。甲子園の雰囲気はやはり独特です。夏とはまた違った雰囲気を楽しませていただきました。この財産は、社高校の在学している皆さんにしか味わえなかったことだと思います。この経験を大事にして、今回感じたことを選手だけでなく、応援した私たちもしっかり胸にとどめておきましょう。改めて皆さんの応援に感謝しますと共に、選手監督の皆さん、2度も甲子園出場を果たし、私たちを甲子園球場に連れていってくれたことに「ありがとう。お疲れ様でした」の言葉を贈りたいと思います。その上で、この悔しさは甲子園でしか晴らせないと思うので、夏に向けた準備を進めていってください。よろしくお祈りします。



21日、選手監督が帰校しました。練習ではグラウンドに帰ってきていたのですが、



のですが、

宿舎生活を長く続けており、久しぶりの通常生活です。保護者、教職員が出迎える中、胸を張って帰校しました。バスから降りてきた選手達は、荷物を降ろして、帰りを待っていていた保護者の前に整列し、隈主将がお礼の言葉を述べ、その後、私たち職員にも挨拶をしてくれました。そして、ミーティングの後、荷物を整理し、帰路につきました。8日からの遠征でしたので、一度リフレッシュして気持ちも切り替えてやって欲しいです。お迎えに来ていただいた保護者の皆様、21日出迎えをしていただいた先生方、ありがとうございました。

3月22日と23日で令和4年度が終わります。春季休業中の過ごし方は考えましたか？新学年を迎える心の準備と学習の準備、部活動を頑張る人はシーズンが始まる準備を入念にしてください。

